

# 《人形遣い アリス・マーガトロイド》

効果モンスター

星4 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻1500 / 守1800

手札の「ドール」または「人形」と名の付いたモンスター1枚を墓地へ送る事で、

このカードの攻撃力はエンドフェイズまで700ポイントアップする。

フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、

デッキから攻撃力1000以下の「ドール」または「人形」と名の付いたモンスター1体を手札に加える。

「そんな瑣末な事はどうでも良かったのであった」

- ・ 12月第二週及び第三週パック「蒼天已死」実装時にフレーバーテキストが追加されたカードの1枚。

サーチャーの一体であり、手札の[ドール](#)をコストに攻撃力を上昇させる起動効果と戦闘で破壊された際にデッキから攻撃力1000以下の[ドール](#)を手札に加える誘発効果を持つ。

起動効果は手札を消費するには上昇値が半端で効果も1ターン限り、効果自体はお世辞にも強いとは言えない。しかし各種[ドールパーツ](#)や[《うるわしのビスクドール - エシーラ》](#)[《ドールキメラ》](#)等捨てるカードには困らないので状況によっては使っても良い。

そしてこのカードの本分である誘発効果はギリギリ[《アクア・マドール》](#)に対応していないのが玉に瑕だが

- ・ [《さまよいのビスクドール - アリス》](#)
  - [《呪われたドールハウス》](#)が存在する等の効果が活かせるタイミングに手札に加えることになる。基本的に事故要因となるこのカードを大量投入することを避けられるのは大きい。アリスからアリスを呼ぶという流れの美しさを味わうための選択肢と割り切ってしまうのが賢明。
- ・ [《うるわしのビスクドール - エシーラ》](#)
  - 最上級モンスターだが特に召喚制限もないので、捨て蘇生や[《ディメンション・マジック》](#)等による特殊召喚の布石に使う事が出来る。
- ・ [ドールパーツ](#)
  - 単独ではなんの役にも立たないので基本的に避けるべきだが、このカードの起動効果や[《ストロールドールカミカゼ》](#)の使い捨ての弾としてサーチするのも有り。
- ・ [《ドールキメラ》](#)
  - 各種[ドールパーツ](#)はサポート豊富なローレベルなので不可能ではないがそれでもかなり厳しい召喚条件を持つため、現実的な確立で召喚しフィールドを制圧できるだけの攻撃力を得ようとするとなりに優秀なサポートであるこのカードですら投入の余地が無くなる。だが紆余曲折の末召喚条件を満たしたのに肝心の[《ドールキメラ》](#)が無いでは泣くに泣けないので多少構築の難が増えてでも[《ドールキメラ》](#)特化デッキにこのカードを投入するだけの価値はあるかもしれない。
- ・ [《デーモンズ・マドール》](#)
  - [【ドール】](#)と直接の関係は無いが名前にドールが含まれるためサーチすることができる。ネタとしてだけではなく[ドールパーツ](#)が墓地に存在する事に意味があるレベル1の通常モンスターのため[《高等儀式術》](#)で[ドールパーツ](#)を大量に墓地送りにする戦略は事実有効である。このカードも[ドール](#)もステータスが軒並み低くサポートもある程度共有が可能なという具合にシナジーを持つので、前述の戦略を使用する場合には有力な選択肢の一つに含まれる。[《終焉の王デミス》](#)[《闇の支配者 - ゴーク》](#)等に勝たせてもらうのが嫌だという人にオススメ。
- ・ [《上海人形》](#)
  - 上記全ての状況に属さない時サーチする事になるだろう。適当に壁として出すだけでも戦闘破壊された時にカードをドロウできるので（タイムラグこそあるが）アドバンテージを損なう事が少ない。また使用する機会は少ないがパーンという別の選択肢も持つため融通が利く。所謂「安全牌」の役割となる。
- ・ [《輪廻の西藏人形》](#)
  - こちらは多少発動条件が限定的になるがサルベージカード。わざわざサーチしてくるようなカードでもないが[《ストロールドールカミカゼ》](#)等を伏せていてサルベージしたいカードがあるならば一考の余地はある。
- ・ [《博愛の仏蘭西人形》](#)
  - こちらもあまり選択肢にははまらないであろう。効果ダメージを無効化するので[【フルバーン】](#)等に対してサーチしてくる程度か、元々の守備力が他のアリス[ドール](#)と比べていくらか高めなので壁としてサーチすることも出来る。
- ・ [《首吊り蓬萊人形》](#)
  - 攻撃力が場の[人形](#)に依存するので場に人形が多く存在するならサーチ対象に選ぶ価値が出てくる。が、逆に自分の場にモンスターが居なくギリギリの状態なのなら今度はこのカードより[《上海人形》](#)の方を優先すべきだろう。

このように役に立つものから立たないものまで色々とサーチできる。

ステータスも高い守備力とリクルーターに対応する最高攻撃力を持ち、効果でサーチする対象も豊富と、このカード自体の能力はかなり高いと言える。しかしサーチする対象が単独では難があるものが多く状況を打開するには力不足である。それでも[【ドール】](#)に置いて重要な地位を占めるカードだということに変わりはない。

既に[【ドール】](#)では実質必須カード状態だが、サーチ対象の幅が広いので新しい[ドール](#)が実装されるたびに比例してこのカードも更に強化されることになる。今後が期待される一枚。

- ・ 咲夜さん C G I ver3.59\_2へのverUPに伴うエラッタで2点が強化されている。
- ・ 攻撃力上昇値が600 700に

これにより「効果を使って《サイバー・ドラゴン》と相打ち」から「効果を使って《サイバー・ドラゴン》を殴り倒す」にランクアップ。地味だが、侮れない100ポイントである。

- ・ 効果破壊に対応

つまるところ [《破棄再生》](#) や [《激流葬》](#) でも効果が使えるということ。元々低攻撃力モンスターなので効果破壊されることはあまり無いが、相手にとって見れば対処法は限られて来るため地味に嫌らしい。

攻撃名は「**リターンイナニメトネス!**」

効果発動時メッセージ「**アーティフルサクリファイス! 人形遣い アリス・マーガトロイドの攻撃力が600ポイントアップ!**」

- ・ 原作・アニメにおいて

東方妖々夢三面ボス、永夜抄以降は自機として登場することも少なくない。

旧作『怪綺談』に登場した3面&EXステージボスのアリスとは同一人物である。魔界出身で生まれ付いての魔法使いであることを隠しているために修行を積んで『魔法使い』になったとされている。

圧倒的な力で勝つことを好まず、相手より多少上の力で戦うことを心がけている。全力を出して負けると後がないと考えているために本気で戦うことがなく、強者との戦いを避ける傾向がある。そのためか東方緋想天では最高コストのスペルを唯一持たないキャラとなっている。封をして持ち歩いている本は旧作で使用していた『究極の魔導書』なのかもしれない。

[《黒魔法少女 霧雨魔理沙》](#)とはライバル関係にある。

共に行動する事も多いが、魔導書やマジックアイテムを盗んでいく魔理沙に業を煮やして藁人形に五寸釘を打っている姿が目撃されている。

二次創作においては、大抵[魔理沙](#)といちゃらぶしているか、[魔理沙](#)をストーカーしているか、もしくは友達がない。

## 関連カード

- ・ [《上海人形》](#)
- ・ [《博愛の仏蘭西人形》](#)
- ・ [《輪廻の西藏人形》](#)
- ・ [《首吊り蓬莱人形》](#)

- ・ [《ストロードールカミカゼ》](#)
- ・ [《スーサイドスクワッド》](#)

## 関連項目

[人形](#)  
**[【アリスドール】](#)**